

男女共同参画・働き方改革委員会企画 JOYFUL通信

◆◆◆ 目指せ！ 外来診療エキスパート ◆◆◆

高知大学整形外科

濱口 理沙

私は現在、高知大学整形外科の非常勤として大学病院に週3日勤務し、残り3日はクリニックで働いています。大学病院では手術に助手として参加できることはもちろん、多くのスタッフと交流でき最新の情報を得られます。一方、クリニックでは一日中外来で、整形外科の様々な疾患を経験でき、初診からの経過を細かくフォローできます。4歳&1歳の2人娘を抱えながら1年前にやっとの思いで専門医を取得した身にとっては、2つの職場の行き来は毎日が勉強で充実しています。ただ、やりたい事、やり残した事が日々積み重なり、慢性的に消化不良な状態でもあります。もっと学会に参加したい、手術手技を習得したい、などやりたい事を挙げるときりがありませんが、当面の課題は、“今日は一日やり切った！”と思える日を増やし、消化不良をスッキリさせることです。

整形外科に入局した頃は、専門医を取得しバリバリ執刀し活躍する自分の姿を夢想

していましたが、専門医の取得も遅れた上に今の私は当時思い描いた姿とはずいぶんかけ離れています。ただ、メスを握らなくても意外に働ける場所があると実感しています。整形外科は分野が広く、外来も大事な業務です。これは5年前にクリニック勤務を始めてから知りました。外来でじっくり患者さんの話を傾聴し、“男の先生より話しやすい”と言われた時には思わず小躍りしたくなります。整形外科が女性医師から敬遠される理由として、手術で時間的拘束が長い、骨折の手術は大工さんで男性の仕事といったイメージが先行していることが考えられますが、外来なら勤務時間がある程度予想しやすく、ママさんをはじめとした女性医師も働きやすいと思います。私も母親になるまで考えたこともなかったですが、今後もママさん整形外科医として長くやっていく為に男性整形外科医とはまた違う働き方を目下模索中です。そのうちの一つとして、大学ではRA外来を担当する

ことになり、RA専門医取得という新しい目標を掲げ動き始めました。未だ執刀ということに対する強い憧れはありますが、今はまず外来業務の修行を優先し、外来診療のエキスパートとして活躍できるように頑張っていくつもりです。

偉そうなことを言いながら、カンファレンスや手術の途中であっても、ある時間になると帰るようにしています。医局で現在働いている女性は私だけなので、途中退出する仲間はいません。ただ、帰りが遅くなればなるほど娘達は困るので、仕方ないと割り切っています。娘達が成長して手がからなくなればこの状況も少しは変わるのではと期待しつつ。医局の皆様の理解もあり、大変感謝しています。

女性医師の特集記事はよく目にし、記事を読む度にそれぞれの先生方の奮闘ぶりを知り元気をもらっています。今後、さらに女性整形外科医の仲間が増え、交流する場ができると嬉しく思います。